

令和4年度 第56回 中学生の「税についての作文」
まちだ納税貯蓄組合連合会優秀賞

「新型コロナウイルス感染症から学ぶこと」 町田市立小山中学校 3学年 熊谷 渚央

これは、この夏私が体験した内容に基づいて書いています。

令和四年八月六日、とうとう弟が新型コロナウイルス感染症にかかってしまいました。感染力は思っていたよりも強く、あつという間に家族七人が新型コロナウイルス感染症にかかってしまいました。発熱から伴う頭痛や咳、倦怠感等のインフルエンザに似た症状に数日間とても悩まされていきました。療養期間中は外出することができず、家にあった食材も尽きかけていきました。そんな時に父が自宅療養サポートセンター（うちさば東京）のご案内を目にしました。食料品配送を電話でお願いしてから二日後、二箱の大きなダンボールに入ったたくさんの食料品が届きました。中にはカップ麺やパスタ、レトルト食品、パックご飯、飲料水などが入っていました。その中でも特に助かったなと思ったのは缶詰やカップ麺です。この支援物資の内容で思ったことは、どれも食欲が無い時や辛い時でも手軽にすぐに食べることができ、体にあまり負担がかからない食べる人のことを考えた内容になっていると思いました。

今回、支援してもらって思ったことは、この支援物資は両親や祖父母などが納めている税金によって賄われていると知り、納税の大切さを実感しました。また、納税をしているからこそ、こういった支援を受けることができるということが分かりました。他にも今回医療機関で受けたPCR検査では、発熱や風邪症状のある場合や、感染者の濃厚接触者等であれば、検査費用の自己負担金はなく、全て公費によって賄われるということが分かりました。このことについて私は日本の制度について全く知りませんでした。税というものは日本の国民が安心して安全に暮らすためにあるものなんだということが分かりました。そのことに関連づけて、警察官などの公務員の人のお給料が税金で支払われているのは日本国民が安心して安全に暮らすためなのかなとも思いました。

新型コロナウイルス感染症にかかったときはとても辛かったけど、感染したからこそ分かったことや新たな気づきもあったのかなと思いました。治療薬のないウイルスにかかり分らないことだらけだったけれど家族をはじめ、今回食料品を配送してくれた人、PCR検査をしてくれた医療従事者の方々などに改めて心からお礼を言いたいと思います。

私は将来、警察官になりたいと思っています。その理由は、人を救う仕事に就きたいと思っているからです。でも、今回の一件を通して、人を救うことのできる仕事は警察官だけに限らないのかなと思いました。

この先、私が大人になった時でも今のようになっている人、助けを求めている人がいたら支援できる世の中が続いていることを望みます。